

大学教育再生加速プログラム(AP) 事後評価結果

整理番号	49	大学等名	神戸大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

（「大学教育再生加速プログラム委員会」による評価）

【総括評価】

A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

【コメント】

大学改革の加速については、学生が身に付けるべき能力として定めた「神戸スタンダード」の養成のために、「ナンバリングとクォーター制の導入」「『初年次セミナー』の導入」「教養教育の重視」及び「学修環境の充実」の4つの取組で教育改革が推進されている。特に、「ナンバリングとクォーター制の導入」は全学的な教育課程の改変であり、学生の履修計画・学修活動の支援、授業の短期集中化及び「チャレンジターム」の設定は、学生の学外学修参加及び授業外学修時間の増加という成果を上げている。また、教養科目を見直し、「基礎教養科目」及び「総合教養科目」の設定により教養教育を充実させたことも評価に値する。

事業の具体的な取組の進捗状況については、本事業への学生の参加費用は原則自費で行うこととなっているが、奨学金や助成金による支援に加えて、国内外の同窓会の協力が得られ、経済面でのサポート体制が構築されていることは評価できる。また、学生が作成・提出する「チャレンジシート」と「リフレクションシート」のセットにより学生に求める3つの力「チームワーク力」「自己修正力」「課題挑戦力」の自己評価が可能となっており、これは学生の自主的成長の記録となっていることは評価できる。

事業の定着に向けた実施体制及び継続のための取組状況については、当該大学の教学マネジメントを行う大学教育推進機構の下に「神戸グローバルチャレンジプログラム委員会」を設置し、学長を中心とした体制の整備が行われてきたことに加え、この実施体制が補助期間終了後も維持され、継続して本事業を実施することが全学で承認されていることは評価できる。また、補助期間終了後も本事業をより充実した取組とするため令和元年度に行われた全学部との意見交換では、課題の共有や連携体制の確認がなされただけでなく、本事業の取組・成果の全学部への周知徹底にもつながっており、事業継続への大きな成果をもたらした。一方で、渡航費については学生自らが負担することが原則であり、補助期間終了後もより多くの学生が参加できるよう引き続き神戸大学基金からの助成、後援会・同窓会組織からの援助を受ける予定であるとのことだが、様々な背景を持った学生に配慮し、学生の負担を少しでも軽減できるよう、工夫を重ねていくことが期待される。

事業成果の普及については、プログラム参加学生の活動成果報告会として実施している「神戸グローバルチャレンジプログラムフェア」という参加学生同士のネットワークの構築や学外学修活動成果の共有により、今後の学修への刺激やモチベーションの獲得、さらには学内への成果の波及とプログラム周知等、多くの効果的な結果を得ることのできる仕組みとなっていることは評価できる。